



映像作家 大川景子監督作品

「異境の中の故郷」

—作家リービ英雄 52年ぶりの台中再訪—

上映会

2014年 7月19日(土)

16:30 ~ 18:30 (開場 16:00)

立命館大学衣笠キャンパス 以学館2号ホール

参加無料
事前申込不要

イベント内容

1 ドキュメンタリー映画

『異境の中の故郷—作家リービ英雄 52年ぶりの台中再訪—』の上映

2 ディスカッション 温又柔 (小説家)・大川景子 (映像作家)・西成彦 (比較文学研究者・立命館大学)

映像作家 大川景子監督作品

「異境の中の故郷—作家リービ英雄 52年ぶりの台中再訪—」 上映会

作品概要

西洋出身者として初の日本語作家・リービ英雄が、半世紀ぶりに少年時代のひとときを過ごした台湾・台中を52年ぶりに訪れる—
米国生まれのリービ英雄は日本語で創作する作家だ。リービは少年時代を台湾・台中で送った。家では、英語をはじめ、外交官の父を訪ねてくる国民党の老将軍や使用人の中国語が飛び交い、高い塀の外では、台湾（閩南）語が響くという環境だった。以前の家主が残した古い雑誌に印刷された文字や、レコードから流れだす歌声をとおして、日本語と触れ合うこともあった。その家は「模範郷」と呼ばれる旧日本人街にあった。日本人が台湾を去って、まだ数年。交錯する複数の言語の響きを含み込む1950年代の台中の風土にリービ少年は包まれていた。両親の別れによって「模範郷」を離れたとき、彼は十一歳だった。

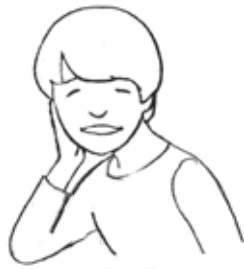
台湾の東海大学シンポジウムに招聘されたことがきっかけで、2013年3月、リービ英雄は半世紀ぶりに台中を訪れることを決意する。この2度とない旅に、詩人の管啓次郎と作家の温又柔、映像作家の大川景子が同行し、ドキュメンタリー作品『異境の中の故郷—作家リービ英雄 52年ぶりの台中再訪—』が完成した。

これは、単なる追憶の旅の記録ではない。リービの「現在」の背後に控える「過去」をあらわにすることで、「未来」に書かれるだろう彼の「日本語」を予感する旅のドキュメンタリーである。

上映会参加者プロフィール



リービ英雄
リービ・ひでお



温又柔
おん・ゆうじゅう



大川景子
おおかわ・けいこ

1950年アメリカ生まれ。少年時代を台湾、香港で過ごし、67年に日本に初めて住む。その後、日米往還を繰り返し、プリンストン大学大学院博士課程修了、プリンストン大学、スタンフォード大学で日本文学の教授を務める。87年、『群像』に小説「星条旗の聞こえない部屋」を発表。日本語を母語としない西洋出身者による初めての日本文学として話題を呼ぶ。以降『天安門』『千々にくだけて』『大佛次郎賞』『仮の水』(伊藤整文学賞)等を刊行。現在も日本文学の最前線をひた走り続ける。

小説家。1980年台湾・台北市生まれ。3歳のときより東京在住。日本語・中国語・台湾語が飛び交う環境で育つ。2009年、「好去好来歌」ですばる文学賞佳作を受賞。著書に『来福の家』(集英社)。2013年、音楽家・小島ケイタニーラブと共に朗読と演奏によるコラボレーション活動を開始。エッセイ「失われた〈母国語〉を求めて」を白水社HPで連載中:
<http://www.hakusuisha.co.jp/essay/bokokugo.html>

Comment

「日本語は日本人だけのものではない」。身をもってそう示してくれた文学者の「故郷」は、わたしが生まれた台湾にありました。

映像作家。1978年生まれ。東京芸術大学大学院映像研究科卒業。諏訪敦彦監督編『黒髪』、筒井武文監督『バツハの肖像』編集、杉田協士監督『ひとつの歌』助監督・編集。自身の作品としては、茨城県の化学工場で働くインドネシア人研修生たちの日常生活を追ったドキュメンタリー『高浪アパート』(2006)がある。『ろうそくの炎がささやく言葉』(勁草書房)や『春の先の春へ 震災への鎮魂歌 古川日出男 宮澤賢治『春と修羅』をよむ』(左右社)プロモーションビデオを担当。

Comment

作家リービ英雄が故郷を52年ぶりに再訪するという記録は、リービ氏の作品と同様に見聞パーソナルなようであってそれにとどまっていけないのだ、わたしはこの作品とそう向き合い作りました。



アクセス

立命館大学 衣笠キャンパス

- JR・近鉄 京都駅より 市バス50・205
- JR 円町駅より 市バス15・204・205
- 阪急電車 西院駅より 市バス205
- 阪急電車 大宮駅より 市バス55
- 地下鉄 西大路御池駅より 市バス205
- 京阪電車 三条駅より 市バス15・59

- 市バス15・50・55・59にて「立命館大学前」下車/徒歩5分
- 市バス204・205にて「衣笠校前」下車/徒歩10分 東門



お問合せ先

立命館大学国際言語文化研究所

Phone: 075-465-8164 / Fax: 075-465-8245

E-mail: genbun@st.ritsumei.ac.jp

URL: http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/lcs/lcs_index.htm